



早めの避難で命を守ろう

大雨と河川の増水・はん濫に備えましょう！

▶ 町が発令する避難情報 ◀

| 警戒レベル | 避難情報など | 状況 | 住民がとるべき行動 |
|-------|---------|------------------|---------------------|
| 5 | 緊急安全確保 | 現に災害発生または切迫 | 命の危険があります。直ちに安全を確保！ |
| 4 | 避難指示 | 災害が発生する危険切迫 | 全員避難する。 |
| 3 | 高齢者など避難 | 災害の恐れがある | 高齢者・障害者・要支援者は避難する。 |
| 2 | 大雨注意報 | 今後気象状況が悪くなる恐れがある | 自分の避難行動を確認する。 |

問い合わせ先：総務課 防災交通室 ☎85-3080

新採用職員による「ちょっと」ルポ 町防災訓練

町民830人が大津波襲来に備え避難

～「訓練の大切さを実感」～

役場の今春採用職員(23)が、7月17日に実施された町防災訓練で見聞、体験した感想を紹介します。

例年はまちを挙げて実施している同訓練は昨年、新型コロナウイルスの影響で中止しましたが、今年は一斉避難訓練のみと規模を縮小し実施しました。

サイレン一斉吹鳴

当日私は緑丘の白老小学校のグラウンドに避難してくる人の写真を撮るため、同所で待機していました。

午前9時、気象庁大津波警報が発表。消防サイレンや町内49カ所に設置されている防災行政無線のスピーカーが一斉にサイレンを吹鳴。「おお」と少々緊張しましたが、時間を置かず周囲の人のスマホに緊急情報が着信。訓練開始です。

2、3分もすると早くも三々五々の人の姿が見え始めました。開始10分から15分ほどでしようか、子どもや高齢者を含めた家族、夫婦と多くの方が避難してき

ました。訓練に全面協力するしらいおん防災マスター会の方によると、同避難所には例年70人前後が集まるらしいですが、今年もほぼ同数程度ではないか、とおっしゃっていました。

津波避難は時間との勝負

かかった時間は私の予想よりずっと早いものでした。津波からの避難は時間勝負。そして、避難

の合図はどうなってるの？子どもやお年寄り連れだと歩く時間はどのくらい？道々の障害物は？などということは、実際に歩いてみないと分からないことが参加者の会話から漏れ聞こえました。



危機管理意識は低くない

町全体の参加人数は例年千人を超えますが、今回は831人でした。コロナ禍で外出を控え、気味、訓練内容も縮小、土曜の休日実施などを考慮すると、決して少ない数字ではないと思います。近年多発する自然災害への町民の不安や関心度の高さが反映されたのではないのでしょうか。

貴重だった設営訓練

この後町職員は同小体育館で感染症対策に目配りした避難所設営・受け入れ訓練を実施しました。簡易型避難用テントの組み立ては、未経験の私は最初もたついてしまいました。2個目以降は頑張つてスムーズにできました。流れを通じた訓練を事前に体験しているのと、していないのでは本番で大きな差が生まれると痛感しました。今回の訓練で得た知識・経験を生かし、非常時には落ち着いて迅速に行動できるようにしたいと思います。

(企画財政課 畠山 怜)